

■12月5日

スカイマーク、米子空港、羽田・那覇・札幌新路線就航、前倒しを検討

12月20日から米子空港と成田、神戸、茨城間に定期便を就航させるスカイマークは、さらに羽田、那覇、札幌の3路線の来年4月就航を検討していることが明らかになった。

同路線の開設に関して、スカイマークの西久保慎一社長が9月19日に、来年11月から米子空港に羽田、新千歳、那覇便を1往復ずつ就航させ、計6路線を新たに展開する運航計画を発表していたが、機体や発着枠などの整備計画が整いつつあることを前倒しの理由の一つとしている。

(日本海TV)12/4

<http://news24.jp/nnn/news8754136.html> (-> <http://news24.jp/nnn/news8754136.html>)

(産経ニュース)12/4

<http://sankei.jp.msn.com/economy/news/131204/biz13120414580013-n1.htm> (->

<http://sankei.jp.msn.com/economy/news/131204/biz13120414580013-n1.htm>)

(日本海新聞)9/20

<http://www.nnn.co.jp/news/130920/20130920002.html> (-> <http://www.nnn.co.jp/news/130920/20130920002.html>)

国交省、エチオピアとの航空協議、成田発着枠週7便で合意

国交省は4日、日本とエチオピアとの航空協議において、成田空港について週7便での就航が可能な枠組みを新設することで合意したと発表した。また、日本とエチオピアの航空会社同士によるコードシェアも自由化した。

日刊航空によると、今のところ、日本の航空会社は路線開設に消極的だが、エチオピア航空が成田路線に就航する意向を示している。同社は、かつて1990年代に成田乗り入れの意向を持っていたが、当時は成田空港の発着容量が一杯で実現せず、いわゆるウェイトイング国の1つだった。

エチオピア航空は今後、成田路線開設に向けた具体的な計画を詰めていくという。当初は週2~3便での就航から、需要が定着すれば増便していくものと見られる。同社は787型機も保有しており、日本路線開設なら有力な機材候補となる。ただ、拠点とするアジスアベバ・ボレ空港が標高2,300mの高地にあり、日本までの直行便が設定できるかは微妙なところだ。

(日刊航空)12/5

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(国交省プレスリリース)12/4

http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku03_hh_000223.html (->

http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku03_hh_000223.html)

自民税制調査会、航空機燃料税軽減、3年間延長認める方針

自民党税制調査会は3日、2014年度税制改正で国土交通省が要望していた「航空機燃料税の特例措置の適用期限3年間延長」について、概ね認める方向性を固めた。

航空機燃料税は2011年度から2013年度までの3年間を期限として、本則2万6,000円/klを1万8,000円/klに約3割軽減している。

(日刊航空)12/4

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

航空機燃料上昇、9月上旬以来の高値水準

(日経によると)

航空機燃料などに使うケロシンの価格がアジアで上昇している。指標となるシンガポール市場の取引価格は現在、1バ

レル127ドル程度。直近安値を付けた11月上旬に比べ6%高く、9月上旬以来の高値水準となった。原油価格が強基調なのに加え、11月下旬に中国山東省青島市で中国石油化工の石油パイプライン爆発事故が発生し、供給懸念が市場で意識された。中国系の航空機燃料商社は12月後半～来年1月分は通常より多めに買い付ける予定という。ケロシンとほぼ同成分の灯油が、北半球で需要期に入ったことも背景。

ケロシンやガスオイルなどのシンガポールの在庫は現在、667万バレル程度。前年同時期より3割少ない。原油とケロシンの価格差は9月下旬に14～16ドル前後だったが、足元では17～20ドルにまで拡大した。

ケロシンの価格が影響する燃油特別付加運賃(サーチャージ)は据え置きとなりそうだ。10～11月のケロシンの平均価格は、日本航空や全日本空輸の来年2～3月発券分の燃油サーチャージに適用される。

10～11月の平均価格は8～9月と2ドル弱しか変わらないため、来年2～3月発券分の燃油サーチャージ価格は12月～来年1月発券分と比べ横ばいとなる可能性が高い。

(日経)12/4

<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO63559250T01C13A2QM8000/> (->

<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO63559250T01C13A2QM8000/>)

国交省、国内線上半期統計、本邦LCCシェア6.1%

国交省は2日、航空輸送サービスに係る情報公開として、定期航空会社10社の国内線2013年度上半期(4月～9月)のデータを公開した。これによると、10社合計の輸送人員は4,529万人で、前年同期比9.1%増加した。前年同期よりも379万人増えた計算になる。一方で、総旅客収入は、運賃単価の下落などで3.1%の伸びにとどまった。

本邦LCC3社(ピーチ・アビエーション、ジェットスター・ジャパン、エアアジア・ジャパン)の輸送人員合計は277万人で、LCC3社は10社合計旅客数のうち6.1%(前年同期は2.1%)のシェアを占めていることがわかった。

(日刊航空)12/5

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(国交省プレスリリース)12/2

特定本邦航空運送事業者に関する航空輸送サービスに係る情報公開のポイント (->

<http://www.mlit.go.jp/common/001020693.pdf>) (PDF形式: 154KB)

特定本邦航空運送事業者以外に関する航空輸送サービスに係る情報公開のポイント (->

<http://www.mlit.go.jp/common/001020704.pdf>) (PDF形式: 92KB)

特定本邦航空運送事業者に係る情報 (-> <http://www.mlit.go.jp/common/001020702.pdf>) (PDF形式: 148KB)

特定本邦航空運送事業者以外に係る情報 (-> <http://www.mlit.go.jp/common/001020703.pdf>) (PDF形式: 125KB)

フレックストラベラー制度に関する情報 (-> <http://www.mlit.go.jp/common/001020700.pdf>) (PDF形式: 56KB)

運賃設定状況 (-> <http://www.mlit.go.jp/common/001020701.pdf>) (PDF形式: 318KB)

PBB使用率 (-> <http://www.mlit.go.jp/common/001020698.pdf>) (PDF形式: 69KB)

特定本邦航空運送事業者に係る情報 (-> <http://www.mlit.go.jp/common/001020699.xls>) (Excel形式: 196KB)

特定本邦航空運送事業者以外に係る情報 (-> <http://www.mlit.go.jp/common/001020705.XLS>) (Excel形式: 106KB)

フレックストラベラー制度に関する情報 (-> <http://www.mlit.go.jp/common/001020706.xls>) (Excel

(->)

タイ国際航空、仙台～バンコク線就航、搭乗率75%達成目標で通年運航を目指す

タイ国際航空便が4日、仙台～バンコク線に週3便で就航した。使用機材はエアバスA330-300(299席)。約170人が搭乗したバンコクからの第1便は3日深夜に出発し、午前7時45分ごろ到着した。折り返し便は約280人を乗せて10時45分ごろに離陸した。仙台市は平成18年からタイからの観光誘客などに力を入れてきており、観光客や貿易の拡大に期待している。

当面は季節限定便(来年3月末まで)だが、同社が掲げる目標搭乗率75%の達成が前提挙げて通年運航を目指す。また、現地では反政府デモが続くが、同社は「影響はない」と説明している。12月と来年1月の搭乗率は、目標の75%を上回る80%程度が見込めるといふ。

バンコク線は、仙台空港発着で運航されている国際定期便としては5路線目。東南アジア方面は98年まで運航されたシンガポールに次いで2例目となる。

雪が降らないタイでは日本の冬季の観光が人気を集めているほか、日本の文物も好まれているという。東日本大震災後のタイの観光客数は回復傾向にある。また、航空機は貨物室も備えており、貿易の振興も期待を集める。4日の第1便では試験的にマグロとマンゴー、ドリアンが輸入されることになっている。

(産経ニュース)12/4

<http://sankei.jp.msn.com/region/news/131204/myg13120402060001-n1.htm> (->

<http://sankei.jp.msn.com/region/news/131204/myg13120402060001-n1.htm>)

(日経)12/4

http://www.nikkei.com/article/DGXNASFB0400A_U3A201C1EB2000/ (->

http://www.nikkei.com/article/DGXNASFB0400A_U3A201C1EB2000/)

(河北新報)12/5

<http://www.kahoku.co.jp/news/2013/12/20131205t12007.htm> (->

<http://www.kahoku.co.jp/news/2013/12/20131205t12007.htm>)

日本政策投資銀行アンケート、アジアからの関西訪日、LCC利用希望76, 7%

日本政策投資銀行関西支店が3日発表した格安航空会社(LCC)に関するアンケート結果によると、アジア各国から関西への旅行を考えている人の76・7%がLCCの利用を希望し、訪日希望者全体の平均(73・6%)を上回った。また、浮かせた旅費は多くが滞在先での買い物などに回すと答えた。

調査は10月8～25日、韓国や中国、台湾などに在住する海外旅行経験者を対象にインターネットを通じて実施。4千人から回答を得た。

(産経ニュース)12/4

http://sankei.jp.msn.com/west/west_economy/news/131203/wec13120321430011-n1.htm (->

http://sankei.jp.msn.com/west/west_economy/news/131203/wec13120321430011-n1.htm)

(日本政策投資銀行 HP)

http://www.dbj.jp/pdf/investigate/area/kansai/pdf_all/kansai1312_01.pdf (->

http://www.dbj.jp/pdf/investigate/area/kansai/pdf_all/kansai1312_01.pdf)

全日空、国内線割引運賃一部値上げ

全日空は2日、2014年1月6日～3月29日搭乗分の「特割」「旅割」シリーズ運賃、東京—大阪線の2月1日～3月6日搭乗分の普通運賃ほか各種割引運賃の一部変更を発表した。

全日空が東京—大阪線の2月以降搭乗分の普通運賃などを変更したのは、スターフライヤーが2月から普通運賃を値上げし、羽田～関西線を22,600円にしたため。同社はこれを下回らないよう現行の22,500円から22,700円へ値上げを行った。割引運賃の一部変更は、他社動向を勘案したもの。

なお、ANAは今のところ国内線普通運賃値上げの届出は行っていない

(日刊航空)12/4

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1204-03.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1204-03.pdf>)

(ANAプレスリリース)12/2

http://www.ana.co.jp/pr/13_1012/13-126.html (-> http://www.ana.co.jp/pr/13_1012/13-126.html)

* 出典:ANAプレスリリース

5.東京＝大阪線の運賃額の変更

- (1)対象運賃:「片道運賃」、「小児運賃」、「株主優待割引運賃」、「小児株主優待割引運賃」、
「プレミアム小児運賃」、「プレミアム株主優待割引運賃」、
「プレミアム小児株主優待割引運賃」
- (2)対象期間:2014年2月1日(土)～2014年3月6日(木)搭乗分
- (3)変更内容:運賃額の変更

	運賃額(変更後)	運賃額(変更前)
片道運賃	22,700円	22,500円
小児運賃	11,350円	11,250円
株主優待割引運賃	11,350円	11,250円
小児株主優待割引運賃	5,700円	5,650円
プレミアム小児運賃	16,350円	16,250円
プレミアム株主優待割引運賃	16,350円	16,250円
プレミアム小児株主優待割引運賃	10,700円	10,650円

※2013年12月29日(土)ご購入分からの運用となりますので、ご購入の際はご注意ください。

PEACH(LCC)、2014年夏ダイヤ、国際線6路線、1日10便を計画

ピーチ・エアレーションは3日、2014年夏ダイヤで、関空と沖縄発着で6路線、1日10便の国際線の運航計画を発表した。

■国際線(2014年3月30日から2014年10月25日まで)

路線	便数
大阪(関西)ーソウル(仁川)	1日3往復
大阪(関西)ー香港	1日2往復
大阪(関西)ー台北(桃園)	1日2往復
大阪(関西)ー高雄	1日1往復

■国際線(2014年3月30日から2014年7月18日まで/7月19日以降は調整中)

路線	便数
大阪(関西)ー釜山	1日1往復
沖縄(那覇)ー台北(桃園)	1日1往復

(PEACHプレスリリース)12/3

<http://www.flypeach.com/Portals/1/PressReleases/2013/131203-Press-Release-J.pdf> (->

<http://www.flypeach.com/Portals/1/PressReleases/2013/131203-Press-Release-J.pdf>)

(トラベルビジョン)12/4

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59814> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59814>)

* 出典:PEACHプレスリリース

<運賃>

路線	運賃 ハッピーピーチ(片道)	販売開始日
大阪(関西)ーソウル(仁川)線	5,280～23,980円	12月3日(火)14:00
大阪(関西)ー釜山線	4,180～21,580円	
大阪(関西)ー香港線	8,880～41,980円	
大阪(関西)ー台北(桃園)線	7,080～37,780円	
大阪(関西)ー高雄線	7,980～32,380円	
沖縄(那覇)ー台北(桃園)線	4,780～21,580円	

7/19-10/25の釜山線、沖縄(那覇)ー台北(桃園)線については後日販売を開始いたします。

バニラ・エア(LCC)、台湾からの予約開始、HPは11月末開設

バニラ・エアは2日、12月4日14時から、12月20日から1日1便で運航を開始する台北発の航空券の販売を開始した。それに先駆け、11月28日からは中国語(繁体字)のウェブサイトを開いている。

同社は、日本発航空券を11月1日に売り出し日には、告知不足により台湾からのアクセス殺到がした経緯がある。

(バニラ・エア プレスリリース)12/2

<http://www.vanilla-air.com/news/232> (-> <http://www.vanilla-air.com/news/232>)

(日刊航空)12/4

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

大韓航空、秋田—仁川線、利用者2万人台へ、搭乗率50%台に落ち込む予想

大韓航空が運航する、秋田—ソウル便の今年の搭乗者は、8年ぶりに2万人台へ転落することが確実となった。搭乗率は6年ぶりに50%台へ落ち込む見通し。春に北朝鮮が弾道ミサイル発射の動きを見せたため、修学旅行で韓国行きを予定していた学校の多くが旅行先を変更したほか、円安で日本人客が減少。東京電力福島第1原発の汚染水漏れ問題の影響で、外国人客が伸び悩んだことも響いた。さきがけwebが報じた。

ソウル便の1～11月累計の搭乗者は2万3052人、搭乗率56.0%。12月の便の定員が前年同月と同数の場合、仮に全便満席でも、13年の年間搭乗者は2万6953人ととどまり、年間搭乗率は59.8%となる。

搭乗者が3万人を切るのは2005年(2万5207人)以来で、搭乗率が60%を割り込むのは07年(57.3%)以来となる。

(さきがけweb)12/4

<http://www.sakigake.jp/p/akita/news.jsp?kc=20131204i> (-> <http://www.sakigake.jp/p/akita/news.jsp?kc=20131204i>)

エアアジア(LCC)、インド国内就航、1月から許可見通し

(レスポンスによると)

タタ・ソーンズ、アルン・バティアと合併でインド国内でのフライト運航を開始するマレーシアの格安航空会社、エアアジア。

民間航空相のアルン・ミシュラ氏によるとフライトの運航許可が2ヶ月以内には下りる見込みで1月から国内での就航が可能となる予定とエコノミック・タイムスが報じた。

本拠地はチェンナイに置き、主に南インドを中心に運営していく。

合併会社の資本内訳はマレーシアのエアアジアが49%、タタ・ソーンズが30%、アルン・バティアが21%を所有。

(レスポンス)12/4

<http://response.jp/article/2013/12/04/212329.html> (-> <http://response.jp/article/2013/12/04/212329.html>)

中国南方航空、カンタス航空、戦略協力で署名

(産経bizによると)

中国南方航空と豪カンタス航空は2日広州で、戦略協力取り決めに署名し、両社は今後、市場開拓やパイロットの交流、貨物輸送などの分野で協力を進めることになった。

取り決めによれば、早ければ来年初めにも、オーストラリア・ニュージーランド域内の10路線でコードシェアを実施する。これにより、南方航空の乗客はオーストラリア到着後、アデレードやケアンズ、キャンベラ、ゴールドコーストに向かうカンタス航空に乗り継ぐことができる。

(産経biz)12/5

<http://www.sankeibiz.jp/business/news/131205/bsk1312050503002-n1.htm> (->
<http://www.sankeibiz.jp/business/news/131205/bsk1312050503002-n1.htm>)